

414  
A 758  
1



千八百九十一年六月四日

日本と我英國ノ關係

本日ノタイムス新聞紙ニ登載セルサ、ハルソー、パー  
クスノ手筒ヲ讀テ歎驚セシ者單ニ吾ノミナラサルヘ  
シ蓋シ其書タルヤ大武烈太厄亞公使タルノ名譽ト鄭  
重トヲ保護スルニ足ラサル者ニアラサルヲ得ンヤ  
去年十月ニ於ハ余ハクオートルソレビウ記者ノ荐  
ニ余ヲ論撃シテ其カ書中ニ記載シタル風説ノ証跡ヲ

大正十一年四月  
大隈侯爵郵奇贈



示スヘント呼喚セリ然レ其掲載セシ風説ノ中一個  
條ノ外ハ都テ自カラ明白ナル実事ニシテ証明ヲ要セ  
サル者ナリト思考スルカ故ニ昨週ニ至ル迄ハ彼記者  
ノ呼喚ヲ等閑ニ附シタリシカ昨週ニ至リ<sup>彼</sup>新報ニ  
於テ再ヒ呼喚サレタルヲ以テ今々余ハ此尋問ニ答ヘ  
テ其事跡ヲ明竅セント欲ス之レ余カ敢テタイムス新  
聞ノ餘白ヲ請フ所以ナリ抑モ余カ前ニ発行セシ書々  
ルヤ竅モ簡略ヲ旨トシ且自己ノ説ヲ保護スルニ要用  
ナル區域ヲ超ヘテハ決シテ我公使ニ論及スルヲ爲  
サス況シテ公使ノ名聲ニ関與スルノ点ニ至レハ余ハ

決シテ一語ヲモ發スルヲ好マサリシハ恰子クタイ  
ムス讀者ノ証見スル所ナリ而シテ余ハ斯クマテモ遜  
讓シテ言フヘキヲモ耐忍シテ發セサリシニ之レニ  
引換ヘテサハルリ、パークスハ直ニ余カ書ヲ目シ  
テ自己ヲ論判スル者ナリトシ答フルニ其語氣タルヤ  
人ヲシテ怒ニ堪ヘサラシメ其説タルヤ証スヘキ所ナ  
キ一個ノ書信ヲ以テシタリ若シ此事件ヲシテ重大ナ  
ル利害ノ関スル所アラサラシメハ余ハ只前後ヲ顧ミ  
スシテ當ニ之ニ答ヘシナラン然レ氏余尚ホ自ラ謙讓  
ヲ守テ成ル可ク丈ケ簡略ヲ旨トシテ之レニ答ヘント

欲スルナリ

余ハ第一ガ、ハルリト、パークス氏カ如何ナル理由ト  
証跡トヲ以テ余ヲ目シテ彼アトランチツク、モンスリ  
ト、ノ論文ハウズ氏  
ノ稿投書ト通同セシ者トナス歎ヲ知ラサル  
ヘカラス氏曰クリードハ國會ノ議負タル勢カト威權  
トヲ以テ五月刊行ノアトランチツク、モンスリトニ於  
テ一米人カ草スル所ノ論文ニ起原セシ放肆ナル論刺  
ヲ聲援シタリト然レモ近日余ハ國會ニ出席スルトヲ  
得サリレケ故ニ余ハ只左ノ數項ヲ以テ此冤ヲ解クニ  
充分ナリト爲サンノミ曰ク余ハ決シテ彼所謂論文ヲ

通讀セシトナシ況ンヤ豈ニ之ヲ起草センヤ又曰ク余  
ハ彼論文ニ基クテ何等ノ解説ニモ推託マシトナキ  
ナリト而シテ又次キニハサト、ハルリト、パークス氏カ  
正當ノ感覺ヲ備エサレハ止ム可シ若シ之レヲ備フル  
者ナランニハ何ニ依テ彼同書中ニ於テ余カ久レクク  
オトトルリト、レビウ記者ノ論撃ヲ黙々ニ附シ而シテ  
今日遽カニ此論撃ヲ拒禦スルヲ以テ余ヲ刺シリ得ベ  
キ歎ヲ質サント欲スルナリ又氏ハレビウ記者ク曾テ  
論破セシトナク單ニ余ヲ呼喚シテ其説明ヲ需メ而已  
トシ其過去リシヲ知ルヘキ筈ナルニ却テ之ヲレビウ

記者ノ論破ト書センニ於テハ其當其正何レニアリヤ  
然レモ余カ斯ノ如ク此事件ニ関シテ字句ノ正當ヲ責  
ムルハ蓋シ故ナキニアラサルナリ夫レサシ、セハルリ  
シ、パークス氏ハ前ニ熟慮ヲ以テ余カ相違セル月日ヲ  
帯々タリト酷責シ且之ヲ証メンカ為メニ余カ前ニ示  
シタル文字ヲ謬マリ抄出セリ蓋シサシ、チヤールス、ガ  
ルク氏ノ論ニ就キ說話スルニ當テ余ハ端シク千八百  
七十六年ノ如ク長ク以前ニ云々ト書シタリ而シテ此  
数字ハ其紙上ニ於テ其ノ如クニ刊行セラレタリシニ  
サシ、ハルリ、パークス氏カ此文字ヲ誤讀シ放マ、ニ

此文字ヲ革タメタルハ實ニ有ルマシキ不可思議ノ事  
ト云ハサルヲ得ス而シテ氏ハ何故ニ其社、公マケル新  
紙上ニ於テ純粹ニ自身一己ノ想像ヨリ出<sup>作</sup>タル所行  
ト過失ヲ公然ト記載シテ余ヲ負累シ以テ其意ヲ得タ  
リト為スカハ余輩之ヲ世工ノ公判ニ委セサルヲ得サ  
ルナリ然リト虽モ若レ氏カ余ニ對シテ公然此ノ如キ  
所為ヲ為スヲ以テ意ヲ得タリト考フルモノナランニ  
ハ氏カ嫌疑ニ觸レタル暹羅支那、日本、及其他ノ不幸ナ  
ル人民ハ斯ハル氏カ所為ヲ以テ爽快ナリトハ思考セ  
サルヘシト斷言スルモ敢テ輕忽ニアラサルヘキナリ

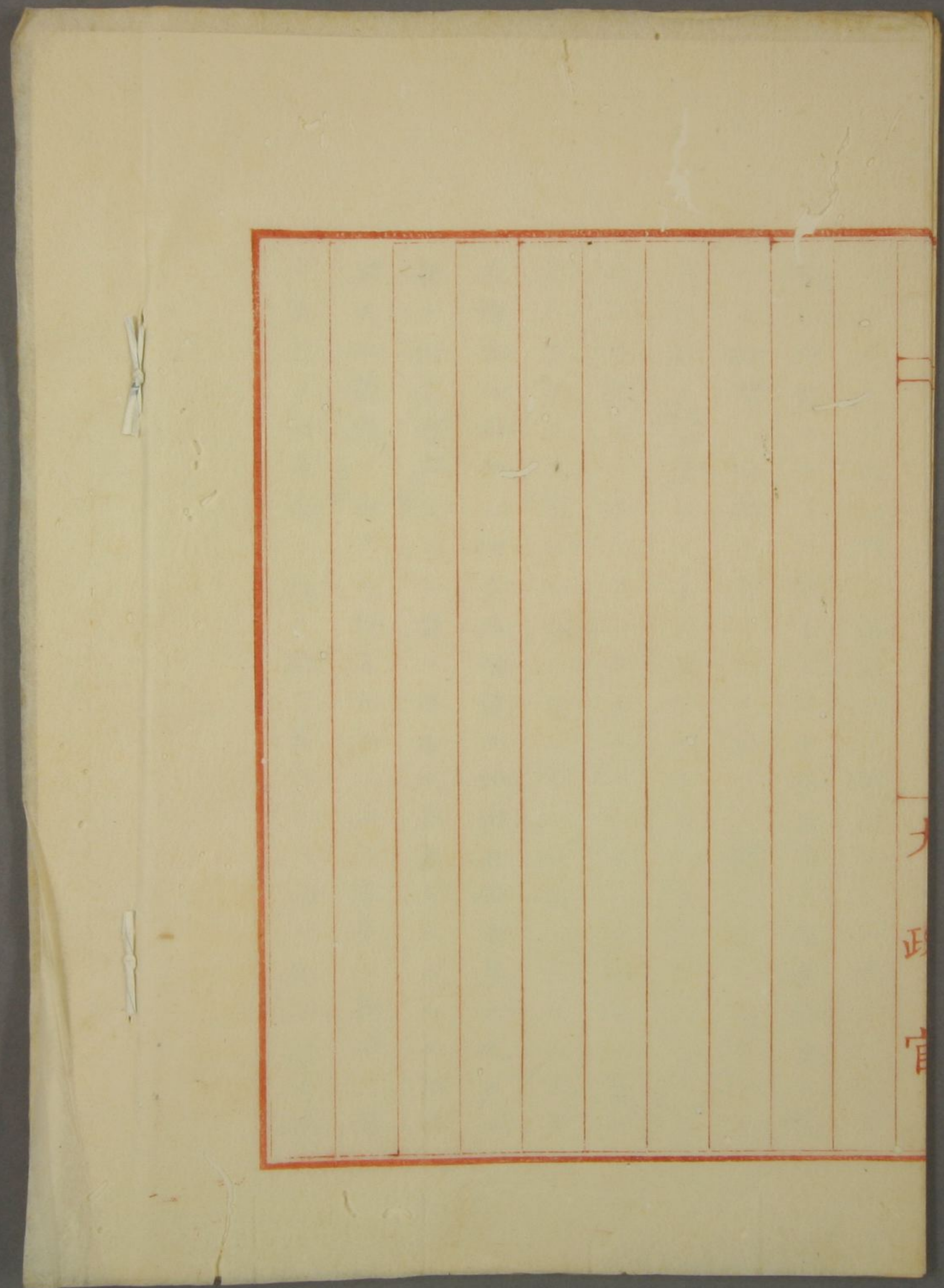
主官ノ如キ地位ニ至ラシメ以テ我自國政府及人民ノ  
知ラサルノミナラス知リ能ハサル所ノ秘密ナル不幸  
損害ヲ作スニ至レハナリ然レモ余モ亦タサシ、ハルリ  
、パークス氏ク從來ニ奏シタル數多ノ勲功ヲ記スル  
ノ一人ナレハ決レテ此論鋒ヲ將テ特リ氏ノ身上ニ傾  
射スルヲ欲スルニ非ラスト虽モ今日本ニ就テ之レヲ  
論スルハ竊早公使交代ノ時熟セリト断言セサルヲ  
得ス而シテ余ハ此交代ノ延期ニ頗ムク所ノ事ヲ為シ  
又言フヲ恐ル、ナリ斯ノ如キ故ヲ以テ今ニ方リテハ  
氏ヲ論撃セサルトハ竊モ必要ノトナリトス何トナレ

ハ若シ種々ニ氏カ行為ヲ突レテ之ヲ論刺スルハ政  
府ハ必ス氏ヲシテ再々其任所ニ就カシムヘケレハナ  
リ蓋シ此事甚タ不思儀ニ似タリト虽モ斯ク弊害ヲ外  
部ニ於テ療治スル此種ノ護國心ハ今ノ世ニ於ケル何  
等ノ政府ニモ常ニ存在スル所ノ惡弊ニシテ其結果タ  
ルヤ愈之ヲ固メ之ヲ久持セシムルモノナリ  
サシ、ハルリ、パークス氏カ日本政府ノ費途ニ関シ節  
略ノ必要ナルトニ就テノ所論ハ余モ最モ見テ同フス  
ル所ニシテ余ノ日本ニ在ルヤカヲ尽シテ此上ノ海陸  
軍費ヲ節セラレシトヲ望ミタリキ然レモ日本ニ駐在

スル所ノ外國公使ク其要請ヲ強迫センカ為メニ其軍艦ヲ呼喚スルトノ數々ナル日本政府ク自國保護ノ為メニ數艘ノ強艦ヲ有スヘキ望ミヲ強テ答ムヘカラサルカ如キ情実アルトテ明言セサルヘカラス  
己ニ其紙上ニ示シタルクオートルリカ呼喚ニ答フルノ并解ヲ反覆スルトハ余ニ於テ必要ナラサルトナリ然リ而シテ余カ當時公發セシ條款ニ就テハ氏カ一身上ノ名譽ニ関スル者ノ外ハ總テサシ、ハリ、バークス氏ノ豫察ニ由テ反擊セラレタリ蓋シ氏ハ政府カ余ノ上告セシ書面ヲ以テ國會ニ附セラレントテ疑懼ス

ルモノ、如シ余ハ氏ニ向テ質サント欲ス曰ク氏ハ何故ニ此書面ヲ妨<sup>去</sup>クル歟又何故ニ氏ノ関スル文ケノ箇條ニ於テハ政<sup>辦</sup>シテ全ク自由ニ處置セシメサル歟數多緊要ノ條件ハ明カニ此答ノ如何ニ依テ見ルヘキノ

ミ



大  
政  
官